

で あ かん
出会う、感じる
た み ん ぞ く た ぶ ん か き よ う せ い し ゃ か い
多民族・多文化共生社会
かんが
～いっしょに考え、ともにつくろう～



サヘル・ローズさん



矢野デイビットさん

2019年6月1日(土)～2日(日)

日本教育会館 (東京都千代田区一ツ橋 2-6-2)

*最寄駅：神保町駅 徒歩5分 / 竹橋駅 徒歩5分 / JR 水道橋駅 徒歩15分

《プログラム》

6月1日(土) 受付 12:45- / 13:15～17:00

13:30～ ダイアローグ

「わたしたちはここにいる～多民族・多文化共生社会の今、そしてこれから」

メインスピーカー サヘル・ローズさん (タレント・女優)

矢野 デイビットさん (タレント・ミュージシャン)

ファシリテーター グレンダ・ロバーツさん (早稲田大学大学院教員)

15:15～ 分科会

入門編 / 女性 / 技能実習 / 労働 / 医療・福祉・社会保障 / 子ども・若者 / 難民 / 収容・仮放免 / 自治体施策 / 反貧困 / ヘイトスピーチ・人種差別 / LGBT ビジネスと人権 (サプライチェーン) / ミックスルーツ / 日本語教育

6月2日(日) 受付 8:45- / 9:30～11:45

9:30～ 「どうなる、どうする移民政策」

*どなたでも、ご参加いただけます。

*参加費：一般3,000円、学生・高校生2,000円

*プログラムは諸事情で変更になることもあります。
詳細は、WEBでご確認ください！

賛同団体・賛同金募集中！

【主催】移住者と連帯する全国フォーラム・東京 2019 実行委員会

【共催】特定非営利活動法人 移住者と連帯する全国ネットワーク SMJ

事務局・問い合わせ先

〒110-0005 東京台東区上野1-12-6 3階 移住連気付

移住者と連帯する全国フォーラム・東京 2019 実行委員会

Tel : 03-3837-2316 Fax : 03-3837-2317 E-mail : tokyoforum2019@migrants.jp

移住者と連帯する
全国フォーラム
東京2019

出会う、感じる多民族・多文化共生社会

<http://tokyoforum2019.migrants.jp>

サヘル・ローズ さん

(女優・タレント・キャスター)

1985年、イラン生まれ。幼少時代を孤児院で過ごし、8歳で養母と来日。様々な苦難を乗り越えながら、高校時代から芸能活動を始め、J-WAVEでラジオDJデビューし、女優、タレント、キャスターとしてTV、ラジオ、映画、舞台と活動中。日本語、ペルシャ語、ダリー語、タジキ語を話し、趣味・特技はテニスや絨毯織りと多彩。主演を務めた「冷たい床-Cold Feet-」では様々な国際映画祭で正式出品され、主演女優賞にノミネートされるなど、女優としても幅広く活動を展開。

芸能活動以外にも、国際人権NGOの「すべての子どもに家庭を」の活動で親善大使を務め、児童養護施設や里親制度に関わる講演会に招聘されるなど、講演のテーマは多岐に渡る。

また、日本の施設への支援活動など、自らの取り組みが認められ、2018年、第9回若者力大賞(社会をより良くするため活躍する若者に送られる賞)を受賞。夢はイランに児童養護施設をつくることで、同じ境遇に苦しんでいる施設の子どもたちを支援し、子どもたちに夢を与えようとしている。

矢野 デイビット さん

(歌手・シンガーソングライター・

Enije 代表・明星大学客員講師)

日本人の父とガーナ人の母との間にガーナで生まれる。6歳の時、ガーナで集団強盗に一家が襲われたことをきっかけに日本へ移住。8歳～18歳まで児童養護施設で育つ。学生時代からモデルやCMの仕事を始め、その傍ら、好きだったピアノを通して音楽活動を行う。

現在ではソロ活動のほか、元Jリーガーで作詞作曲家の兄と、薬剤師の弟とのヴォーカルユニット YANO BROTHERS としてもライブ活動を展開。NHK・Eテレ「ハートネットTV」、日テレ「チカウタ」などにも出演。25歳の時、ガーナでのとあるストリートチルドレンとの出会いをきっかけに「誰にも守ってもらえない子供たちを守りたい」という想いを抱く。自立支援団体 Enije を設立。2012年に一般社団法人化し、教育を柱にガーナで学校建設や教育する側の教育、運動会やサッカー大会を行いながら支援を続けている。支援とは自尊心を育てることという信念のもと、現地のコミュニティーと自立に向けた活動を行う。また国内では楽しんだ代価をチャリティーにする味の素スタジアムでのチャリティーフットサルイベント等を主催。

2019年6月1日(土)と2日(日)、 20年ぶりに東京で全国フォーラムを開催します！

1. 東京オリンピック・パラリンピック2020開催を前に、人権が尊重される社会の実現に向けた取り組みを日本社会、世界へ発信します。
2. 東京を中心とした関東圏の多民族・多文化共生社会に関わる個人や団体のネットワーク作りを目指します。
3. 「移民社会を支えるための提案(仮称)」を日本社会に発信します。

第二次安倍政権発足以降、成長戦略の名のもとに「外国人材の活用」が推進され、2019年4月には、外国人労働者の新たな受入れが予定されています。その一方で、「移民政策ではない」という主張を堅持する現政権は、すでに日本で暮らし、働き、学んでいる移民・外国人の存在に真摯に向き合うことなく、それゆえ、移民・外国人の権利保障や民族的・文化的アイデンティティの尊重、差別禁止など、共に生きるための法的基盤は未整備のままです。

しかし、実際には、すでに日本は移民社会です。2018年6月末現在の在留外国人数は2,637,251人。敗戦後のサンフランシスコ講和条約発効の1952年4月から2017年までに日本国籍を取得した外国人は累積550,715人。1987年から2017年までに生まれた外国ルーツの日本人は累積610,344人。2017年に日本で生まれた外国人は16,666人——。日本は、確実に多民族・多文化社会になっています。私たちは友人であり、同僚であり、クラスメートであり、隣人であり、そして家族です。

世界各国から多様な人々を迎える2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催を前に、まずは「ここにいる」多様な人々の存在に目を向け、多様な人々の思いや状況を理解することで、共に生きる社会をつくっていく必要があるのではないのでしょうか。そのためには、一人ひとりが心を拓き、「日本人」を中心とした社会制度を見直す必要があるでしょう。政府が背を向けているのであれば、私たち市民の手で移民政策をつくっていかねばいけません。

そのような強い思いから、移住者と連帯する全国フォーラム・東京2019を開催することにしました。

共同代表

アンジェロ・イシ

(在東京ブラジル総領事館市民代表者会議評議員/武蔵大学教授)

金 竜介

(弁護士/在日コリアン弁護士協会)

鈴木 江理子

(移住者と連帯する全国ネットワーク副代表理事/国士館大学教授)

鈴木 雅子

(弁護士/全国難民弁護団連絡会議世話人)

西川 晋司

(東京都労働組合連合会執行委員長)

栞木 典子

(認定NPO法人多文化共生センター東京代表理事)

平野 敏夫

(亀戸ひまわり診療所理事長/全国労働安全衛生センター連絡会議議長)

事務局長

渡戸 一郎

(明星大学名誉教授/東京ボランティア・市民活動センター運営委員長)

